

オキナミ

沖波 鳳至郡諸橋郷に屬する部落。今俗に前波・宇加川と共に諸橋といふは、もと諸橋村の名に惣括せられてみたらからである。能登名跡志に、『昔此村に官女の流浪ありて宿かり給ふに、其家に若き男ありて亭の口より覗きしに、官女見て、沖波の立つとはすれど寄せせせずとありければ、若き男、東風といふ風いまだ吹かねばとつけ、れば、それより契淺からずなりしと、所にいひ傳へたり。』とある。

云々。沖ぬりや果等が喰ふ沖なます 北望。とある。
オキノシマ 沖島 鳳至郡大泊の海岸に近い小嶼。
オキホ 興保 河北郡に在つた。嘉曆二年八月廿五日相模守平朝臣の下知狀に、『海老名右衛門太郎忠國法師法名加賀國興野兩保雞掌信智等二相論下地以下事云々』と見える。後世英多郷に興津村あるものは是であらう。

オキナミスワシヤ 沖波諏訪社 鳳至郡沖波に鎮座する。能登名跡志に、『山手に諏訪大明神の大神あり。宮森不殘椎木原也。是も白比丘尼の植ゑしとて、皆古木也。是にも神日伊豆牟彦神社と領あり。前波稻荷社と神號の論あり。』と記する。寛保の前波稻荷社由來記に、『上諏訪・下諏訪とて兩社有之。上の諏訪は下之方に有之、一本木の諏訪とも呼べり。云々。下之諏訪は上之方に有之、立戸の諏訪とも呼べり。』とある。下の諏訪は即ち是である。

オキヤソダユウ 沖彌三太夫 初め御算用者。元祿十六年御算用小頭であつた父平丞の遺知八十石を襲ぎ、享保十年小頭並として三十石を加へ、十二年同小頭に登り又三十石を加へ、十四年組外に列し六十石を増し、十五年正月歿。曾孫辰右衛門の時に家斷絶した。
オキヨウツカ 御經塚 石川郡横江郷に在る部落。郷村名義抄に、この村名は經塚があるから起るとある。正保三年の高辻帳に石川郡御經塚村と書き、明暦二年村御印に尾經塚村となり、延寶二年に又御經塚村に改めたとある。

オキナミヤマ 沖波山 鳳至郡沖波の西方にある山。高さ一三米。山體第三紀層。
オキナモノガタリ 翁物語 ↓ハタケヤマ グンキヒヨウチユウ 昌山軍記評註。
オキヌリ 沖塗 輪島塗の上品をいうた。北國巡杖記輪島の條に、『此地の産物は家毎に索麩を製し、又家具辨當ぬりものをいとむに、夏日大船に木地をしと、積いれ、職人等かの船に數日の糧を貯へ、遙の沖中に從をおろし、數多塗物を拵ふなり。大海若波のうへに一塵あらねば、ほんのりと出来あがり、心のまゝに名器をなせり。これを沖塗といへり。』

オクイオウゼン 奥醫王山 ↓イオウゼン 醫王山。
オクイケ 奥池 石川郡河内庄に在る部落。元來池村であつたが、冬季交通を絶たれるを以て、三里程谷口なる久保村と中直海村との領境に屋敷を取り、十月中旬より三月まで移住して、その地を口池といつたに對し、本村を奥池と呼んだといふ。池村に就いては郷村名義抄に、往古大地震で此の村より奥の山崩れ、直海谷川を堰いて大なる池をなしたことがあるからの名だと説明して居る。
オクイヅミキンベエ 奥泉金兵衛 前田吉

徳の側室善良院の兄で、新知百五十石を受け、組外に列した。養子幸助に至つて一旦斷絶した。
オクイヅミコウスケ 奥泉幸助 初名海平。石川幸七の子で、幸七の弟奥泉金兵衛の後を繼いだもの。俸十人扶持を受け、組外に班したが、天明八年八月十六日不届の廉によつて五人扶持を擡奪せられ、一門御預となり、寛政十一年四月十八日死去の後家斷絶した。但し幸助は前田吉徳の側室善良院の甥に當るを以て、文化元年六月特にその子新録有喜に十人扶持を興へて、組外に列せしめられた。
オクゴシヨウ 奥小將 御奥小將は藩侯近侍の臣で多く年少者を用ひ、配膳等の事を職とした。天正・文祿の頃村井左馬助・奥野彌市郎・村井勤十郎は前田利家の御小々將であり、又津田刑部義忠・篠原織部長次等は利長の御小々將であつたことが見える。小々將は子小將とも書き、小將は元來小姓である。以後逆縮し、延寶五年三月十六日に至つて小々將を御奥小將と改稱せられたが、享保元年七月前田權太夫等の御表小將に仰付けられ、御膳番如元とあつてから當役を廢せられた。然るに前田吉徳時代に至つて、本保義兵衛・伊藤三太夫・富田彌六・遠田傳六又之を勤め、その後は屢廢置せられ、文化五年五月八日丹羽余所太郎・奥村造酒の命せられた後又逆縮した。
オクゴシヨウサイキヨ 奥小將裁許 ↓オクゴシヨウバンガシラ 奥小將番頭。
オクゴシヨウバンガシラ 奥小將番頭 御奥小將御番頭は古へ御小將御番頭と稱したものである。大坂役の頃には齋藤中務・堀田左兵衛・生駒主水・小幡長次・多賀大炊等之を勤務し、その後御先手物頭の兼帯する所となつた。萬治二年小野木治兵衛之に當り、初めて御小將裁許と稱した。次いで寛文初年谷興右衛門、同六年湯原左平太、同七年長瀬新九郎等に命せられ、延寶七年十二月廿一日有賀政寛の命せられるに及んで奥小將裁許と稱した。次いで同八年稻垣三郎兵衛安根、天和三年小泉勘十郎重長・塩川安左衛門久貞・永原治兵衛政張に追々命せられ、元祿三年九月廿七日永原治兵衛政張・丹羽七郎左衛門長智兩人となり、御奥小將御番頭と稱して役料百五十石を賜はつた。十年四月十一日中村市郎左衛門正敬・宮井武兵衛重直之に代り、十二年暫く廢せられ、同年十月廿五日稻垣三郎兵衛安根・塩川安左衛門久貞等五名に兼帯を命ぜられ、寶永七年八月廿一日には高田彌右衛門時種・中村典膳重好命せられて先の兼帯を免ぜられた。以後廢置常なかつたが、文化五年五月八日池田景福の命せられてから逆縮した。御奥小將に組頭といふものは無い。
オクゴシヨウヨコメ 奥小將横目 御奥小將横目は元祿元年二月一日前田庄左衛門長右・三輪六承宗供に初めて命せられ、同三年九月廿七日齋藤吉左衛門好堅・武藤判右衛門元安之に代り、以來逆縮して、十年から役料百石を賜はつた。その後暫く廢せられたが、享保九年八月十一日毛利助右衛門英氏・三宅平太左衛門正知が之に當り、以後時々廢置あつて、文化五年五月六日里見右門元資、七年三月十三日津田源三郎信勝の命せられた後逆縮することになつた。
オクゴホリ 奥郡 信長記に、『加賀國能美・江沼の兩郡を打隨へ、それより奥郡を退治せ

オキ—オク